州域系部活動という新たな選択肢

地域系部活動設置促進事業

*平成28年度は「地域系部活動推進事業」として実施。

(平成26~27年度)

背景・課題

- ■地域に愛着や誇りを持った子どもたちの育成 地域の担い手育成、次世代定住に向けた条件!
- ■ふるさと教育、キャリア教育、問題解決型学習、 高校魅力化等の展開

生徒等の地域社会の一員としての意識の醸成、活躍に 対して高まる期待!

- ■「子ども」による地域活動における高校生参画の有効性 子どもたちによる自主性・主体性をもった活動展開に おける必要条件のひとつ!
- 一方で、地域づくり活動等になかなか参加できない 既存の活動の追考、志をもった生徒等について新たな選 択肢の必要性!?

地域系部活動(=文化部運動部につづく新たな選択肢)を設置し、 高校生の部活動を通じた自主的・主体的な地域づくり活動を展開!



地域の維持・保全、次世代定住の礎(いしずえ)

- ■地域のことを知る、伝える
- 例) 地域の課題や住民活動について、地域自治組織や地域 づくり人材等へのヒアリング調査、ワークショップの実 施、地域の魅力マップの作成 など
- ■地域のために行動、貢献する
- 例) 地域行事への参画、運営支援。地域の食材を活用した商品開発。地域課題に対応したボランティア活動。地域資源を活用した観光プランの企画・実施。地域の子どもたちへの学習支援・人材育成支援。子ども地域活動グループとの連携活動。高校と地域をつなぐコーディネートなど

〔H25~27年度実施内容〕

- 活動費補助
- 外部指導者謝金負担
- 活動成果発表の場づくり

問題意識

地域に愛着や誇りを持った子どもたちの育成は、将来の地域の担い手づくり、次世代の定住に向けた条件のひとつです。

こうした中、学校教育の現場に限らず、家庭・地域の様々な場面で「ふるさと教育」や「キャリア教育」が推進されるほか、地域を舞台にした課題解決型学習、高校魅力化等も進められ、子どもたちの地域社会の一員としての意識醸成や活躍に期待も高まっています。

一方、子どもたちが既存の部活動が多忙で地域活動 に参加できないという声や、学校での様々な学びを地 域で実践する選択肢が必要という声を聞きます。

そこで、県西部圏域の県立高等学校に、「地域系部活動」の設置を促し、高校生が継続的に地域に関わる活動することで高校生の地域に対する理解と愛着心を高め、次世代定住と地域の活性化を図るということを目的に「地域系部活動設置促進事業」を実施しました。

地域系部活動とは、高校生が地域住民との関わりを 持ちながら、地域のことを学び、地域の維持・活性化 に貢献する活動を主体的に企画・実施する部活動を指 します。

モデル部活動

モデルづくりに当たり、県西部圏域の高等学校に呼び掛けたところ、5つの高等学校から設置支援の要望を受けて、次の5つの部活動をモデル部活動に指定しました。

指定を受けた部活動は、地域の状況に応じ工夫を凝らし、フィールドワークや、地域行事への参画をはじめ、特色のある活動を進めています。

学校名	部活動名*	備考	事業期間
島根中央高等学校	しまん―Chu♥!	新規設置(既存 部活動の連合 体)	平成26~ 27年度
矢上高等学校	文化芸術部	既存部活動の 活動拡充	平成26~ 27年度
江津高等学校	チーム 江津地域活性部	新規設置(既存 部活動の連合 体)	平成26~ 27年度
吉賀高等学校	吉高地域クラブ	新規設置(全校 生徒が部員)	平成26~ 27年度
津和野高等学校	津和野 グローカルクラブ	新規設置	平成26~ 27年度

^{*}平成26~27年度活動当時の名称。

*平成26~27年度モデル

しまん-Chu♥!

(島根県立島根中央高等学校)

文化部全員がメンバー。吹奏楽部、美術部、自然科学部、写真部、茶華道部、 JRC部、家庭クラブ、ワープロ部が連携した連合体。それぞれの得意分野を 活かして活動

桜江町×しまん-Chu♥!

美郷町×しまん-Chu♥!

川本町×しまん-Chu♥!



音楽フェスタ In さくらえ



おおちブラス同好会 ゲスト出演



さくらまつり 川本町商工会と連携



桜の塩漬けづくり

桜の塩漬け入り 黒米蒸しパン開発



グリーンロードだいわでのメニュー開発&接客補助 合同会社だいわもんど・美郷町産業振興課との連携



三原っ子ふれあい合宿 川本町教育委員会と連携

ツコウ神輿IN萩

*平成26~27年度モデル

津和野グローカルクラブ (平成28年度より「グローカルラボ」として活動)

(島根県立津和野高等学校)

国際交流分野と地域交流分野の2分野で活動 「地域交流の中で、課題をとらえ、アクションをおこす」

問題意識をカタチに

- グローカルクラブの生徒が 中心となり、それぞれの問 題意識から企画を検討
- ・4月には高校生と地域住民が 交流するイベント「THEお花 見」を企画し、7月には水害 のメモリアルイベント「つわ のあかり」を地域住民と一 緒に企画



年間地域交流

- ・毎月1度地域の行事に参加 する機会を提供
- ・全生徒を対象とし、地域に 関心を持つ機会となるよう、 参加しやすく楽しめる行事へ の参加を実施









流鏑馬神事 稲成神社田植え祭

ほたる祭り

連絡会議

地域系部活動の顧問・担当者をはじめ関係者が集まり、連絡会議を開催しました。

各部活動の近況報告を行うとともに、活動のポイントや取り組みを進める上の課題、活動を通じた生徒、学校、地域の変化について意見交換を行いました。

生徒の交流、学校・部活動を超えた連携や、情報共 有、ネットワークづくりの必要性についての意見もあ りました。

*平成26年10月、平成27年10月に開催。



報告会

地域系部活動の積極的な評価および、地域振興・教育関係者をはじめより多くの方に取り組みを知っていただく場として「地域系部活動設置促進事業報告会」を開催しました。

活動を進める5つの地域系部活動が活動に関するプレゼンテーションを行うとともに、「地域系部活動の掟と秘訣〜地域系部活動の活性化に向けて〜」をテーマにディスカッションを行いました。キーワードは本音・元気・主体性。活動の定着や更なる振興、普及・波及に向けて会場全体で議論を深めました。

ある生徒からは、「地域系部活動に入るまで、地域が正直嫌いで、早く都会に出たいと思っていた。でも、この部活動を通して自分の知らなかった地域のいいところをたくさん知ることができて、最近すごく地域を好きになっている自分がいる。活動を続けてたくさんの人に地域のいいところを知ってもらいたい」という声がありました。

高校生とともに活動に取り組む地域の方からは、活動が地域の活性化につながるという声がありました。

*平成27年1月、平成28年2月に開催。

まとめ

地域系部活動が地域と学校を繋ぐ結節点となり、学校の地域連携活動や実践が促進されました。地域においても、高校生が地域づくりに携わると地域が明るくなるという認識が高まったようです。さらには、地域で学校を支える、協力するといった機運も高まったように感じられました。何より、実際に活動した高校生



交流会

地域系部活動で活躍する生徒の交流の場が必要であるという意見を受け生徒の交流会を開催しました。それぞれの学校の特徴、部活、地域の文化や方言等を交えた自己紹介に始まり、岩本 悠 島根県教育魅力化特命官のコーディネートで、①地域で活動して良かったこと、②地域系部活動のオキテ、をテーマに意見交換・グループワークを行いました。

参加生徒からは「地域の人が喜んでくれるのが嬉しい」、「楽しみながらも真剣に」といった声がありました。他校との交流を通じて生徒のモチベーションが向上する効果も見られました。

*平成27年10月に開催。





が地域を知り、地域を好きになることに結び付いたことは大きな成果です。地域活動に取り組みたいと地域 系部活動がある高校に進学する生徒もいると聞きます。

課題としては、各種調整や引率をはじめ、学校の担当者に負担が集中してしまいがちな点が挙げられます。 こうした点について、地域が学校の状況を知り、どのようにサポートできるか検討していくことが重要です。